

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700132		
法人名	社会福祉法人 白女林		
事業所名	グループホーム白楽荘 みくにの里(1F)		
所在地	福井県坂井市三国町梶49-18		
自己評価作成日	平成 26年 9月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成26年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的な買い物やドライブ、自宅付近への外出はもちろんの事、年に1回何か所かコースを設定し、ご家族の方や利用者の方に希望をとり、小旅行と称して朝から夕方までの外出を行っています。ご家族の参加の中でも配偶者の方が来られる方もいらっしゃいますが、職員同行であるため安心して参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は越前松島海岸沿い近くの木々に囲まれた自然豊かな場所に立地し、敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービスセンターのほか法人施設利用者のための診療所を設置する総合的な高齢者介護の拠点となっている。また、敷地内には職員のための託児所を設けるなど女性の多い職場として長く安心して働き続けられる環境づくりに組織的に取り組んでいる。なお、職員自らにより作成した理念にはグループホームが”生活の場”であり、”地域の一員”であるという地域密着型事業所の特性が明記され、職員はこれを深く理解して日々の実践にあたっている。具体的には過去の生活歴、嗜好等について利用者一人ひとりの情報をより多く収集し、きめ細かに作成された計画のもと、ごく自然な会話と関わりを通じ穏やかな雰囲気の中で適切な支援を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーにみくにの里独自の理念を掲示しており、行事・外出企画・レクレーション等に理念を意識し取り入れている。	職員全体で地域密着型サービスの意義に基づく理念および5項目からなる行動指針を作成し、ミーティングなどで確認、共有しながら、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出かけたり、ドライブで特色ある地域の景観を楽しんでいる。入居者の自宅付近に出かけたり、馴染みの散髪屋などの店に行けるよう支援している。法人全体で地域の自警団と共に避難訓練を行ったり、地域の震災訓練にも参加している。また三国図書館の本の集団貸出しを利用している。地域の敬老会にも参加している。	町内会に加入し、地区の祭りや防災訓練などの行事に参加するほか、保育園や敬老会との交流を積極的に行っている。また、運営推進会議等で把握した地区の行事などの情報を基に可能な限り利用者が参加できるよう心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や保育園の訪問をしたり、中学生の職場体験学習の場を提供している。法人全体として民生委員の見学、ロールプレイで説明などを行っている。三国警察署の協力のもと交通安全運動に利用者と共に参加し、ショッピングセンターで手作りマスコットを配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市議会議員、坂井地区広域連合担当者、地域包括支援センター職員、地区長、地域有識者、保育園所長、家族会会長に参加していただき、活動法区や現状報告、地域密着としての活動相談をし、意見や情報をいただいている。	利用者やホームの状況や課題等を報告し、参加者からは積極的な意見や提案があり、運営に反映している。また、会議の内容は書面により家族に報告し、共有できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議で実状やケアサービスの取り組みを伝え、協力やアドバイスをお願いしている。	日常的、実務的なことにとどまらず、運営推進会議のメンバーとして様々な取組みへの提案やアドバイスを受けるなど良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催している。法人内の勉強会にも積極的に参加している。玄関の施錠はなく自由に前庭に出ただけ。門扉は施錠しているが「外に出たい方は職員までお申しつけください」と表示して対応している。	法人として行う研修への参加やマニュアル等で拘束を行わないケアについて全職員が理解しており、日中の玄関の開錠をはじめ「待ってて」など何気なく発する言葉による拘束を行わないよう日頃から努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で権利擁護、虐待防止についての勉強会を開催している。また週3回の入浴時に全身状態の観察を行っている。内出血や皮膚剥離等に関してはミーティング等で原因を追究している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に出席している。今年度は対象者はいないが、必要であれば従来通り支援を進めていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前説明の日時を設定し、話し合いと同意の上で入居していただいている。また料金改定の際は家族会での説明や個々のお宅に伺って説明同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、要望を記入し投函できる箱(心の音入れ)を設置している。また面会等で意見、要望を言うてくださりやすいように働きかけている。法人全体で2ヶ月に1度苦情相談委員会を設け、話し合いの場をもったり、アンケートを実施したりしている。	日ごろから家族等が意見等を言いやすい雰囲気づくりに努め、出された意見等についてミーティングで話し合い、運営に反映するよう努めている。また、法人として苦情相談委員会を定期的に開催し、事業所における苦情等を適正に検証する機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議(月1回)や日々のチームミーティングで出た意見、個々のコミュニケーションを通して得た意見を取り上げ、具体的な方策を考案し実現へとつなげている。	管理者は全体会議や日常的なミーティングのほか日ごろの利用者との関わりを通じて出された職員からの意見等を日々の支援や運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表で自己評価をし、第2次、第3次評価を行い、賞与に反映させている。また管理者、リーダーが中心となって有給、リフレッシュ休暇の取得を薦めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が中心となり、法人内研修に積極的に参加している。外部研修に関しては職員一人一人のレベルに合わせた研修に参加できるよう薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場で同業者と交流するぐらいであったが、グループホーム連絡協議会の働きかけにより、今年度からグループホーム間交流が始まり、10月に参加を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人とお会いして直接話を伺ったり、入所後に密に関わり本人の言葉に耳を傾け、ケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話し合いをもっている。また面会時や随時の電話等で要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いや調査等の聞き取りをしたり、居宅ケアマネからの情報で必要な支援を見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な作業を入居者と共に行い、一人一人のできることを生活に活かしている。作業手順について入居者の意見を取り入れたり、得意なことを生かしたことや歌などを職員に教えて頂いたりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊、面会の支援とともに外出や他科受診の同行も状況に合わせお願いしている。また衣類、生活用品、おやつ等の購入も協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店での買い物や、散髪、ご自宅等に出かけたり、併設された施設を利用されている知人に会いに行く等の支援を行っている。	馴染みの店での買い物や理美容などの利用や併設施設を利用する知人との面会などこれまで積み重ねてきた関係継続に向けた支援に努めている。また、地域の行事などに積極的に出かけ、住民との交流を深めることを通じて社会性の維持・向上を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係が保てるようテーブル座席配置をしている。気配りや作業援助のできる力をお借りして、ともに作業や会話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内事業所に限られてしまうが、ホームのご利用者とともに面会に出向き、話をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族に伺いフェイスシートに記入している。またケアプラン作成時、他必要に応じてセンター方式シートを記入したり、日々のコミュニケーションから得た思いや希望をミーティングを通じて検討している。	アセスメント時をはじめ日々の関わりの中で利用者本人、家族の思いや意向の把握に努めており、利用者ごとの担当制にすることで状態等の変化に迅速に対応できるようにしている。また、担当外職員による気づき・発見があった場合にも確実に伝わり、共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話、家族からの聞き取り、入所前に利用しておられたサービス機関や在宅時ケアマネージャーからの聞き取りを通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録(ケース記録)、食事、水分、排泄記録、バイタルチェック表、外来診療や受診の記録、センター方式シートなどで現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームミーティングで話し合っており、本人をミーティングの場に招き、話しを伺うこともある。家族、医師、看護師、介護士、それぞれの意見を聞き取りケアプランにつないでいる。	センター方式を活用し利用者の心身状態、経歴等を十分配慮し、家族の意見等を踏まえケアプランを作成している。また、定期的なモニタリングはもとより適宜利用者の状態や本人・家族の意向等を踏まえ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日パソコンで全員の介護経過記録を記入している。重要事項については申し送りノートに記入し随時ミーティングで検討。モニタリングにも反映し、介護計画にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により映画館にお連れしたり、その方の意向に合った美容室を探してお連れする等の開拓をしている。夏の花火大会には時間外だが職員家族も加わり、毎年恒例の楽しみの一つとして盛り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、行事への参加を行ったり、地域で活躍するボランティア団体との交流を行っている。希望があれば、個別に馴染みの理髪店や美容院にお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所医師より月2回外来診療を受けている。また精神科はほぼ月に1回のペースで訪問診療を受けられる体制になっている。他専門医への受診は基本的に家族にお願いしているが、家族の希望や、必要に応じて職員も同行している。	利用者の健康管理上、入居前に併設診療所(主に内科)による受診を促し、本人と家族の了承を得ている。なお、利用者の既往に応じ専門的な受診が必要な場合は、かかりつけ医があれば、家族または職員が同行し、受診情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化について、状況に応じて、事業所内看護師、併設診療所(医療連携)看護師に相談し、受診に結びつけたり、ケアの指導を受けている。診療所とは、夜間オンコール体制により緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の相談窓口や看護師と連携を取り合い、随時病状を確認したり、治療や退院時期の見通しなどについて家族も含め話し合っている。退院時には病院に出向いてカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時早い段階で重度化や終末期に向けた家族の意向を確認し、事業所内で対応可能な内容を説明した上で、他施設・病院・在宅での看取りなどの選択肢も明示している。また、状態低下がみられた段階で再度説明し、診療所や医療機関と話し合いをもったり、他施設への移動の支援をするなど、チームで一貫したケアに取り組んでいる。	入所前に本人と家族に対して重度化や終末期における意向を確認し、事業所として可能な対応について説明している。なお、事業所にて看取りを行ったことはあるが、事業所としての対応マニュアルを整備するには至っていない。	看取り指針はあるが、事業所にて看取りを行う際の具体的な内容や手順等を明記した対応マニュアルを作成し、全職員で共有する取組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをフロアに設置し、新入職員に対して業務時間内に読み合わせをして指導している。またAEDの設置、消防署への救急法の研修に年ごとに参加者を出すなど全員への普及に努めているが、定期的な訓練までは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の事業所内の避難訓練を行っている。また法人全体で夜間を想定した夜間総合避難訓練や地震想定での訓練を行っている。いずれも地区消防団や消防署の協力・指導を得て行っている。	2か月ごとに夜間の災害発生を想定を含め適宜消防署の協力・指導を得ながら避難訓練を実施するとともに、地区の防災訓練にも参加している。なお、事業所内に3日分の飲料等の備蓄があり、毎月「非常食の日」を設け、利用者に体験提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴への誘導に拒否感のある方には「お願いしたいことがあります」など言葉を替えて誘う工夫をしている。作業やレクリエーションにも強制することなく、自然に参加できるようにしている。一人一人の理解力や性格にも配慮して言葉かけをしている。	個人の尊厳やプライバシーの保護等に関する法人主催研修に参加しており、排泄誘導や食事の際の言葉かけ、居室出入りの際に了解を得るなど利用者を尊重し、敬った実践が行っている。また、不適切な言葉使いに対しては都度注意し合うこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ごく普通の希望はもちろん、認知症からくる繰り返しの訴えや帰宅願望なども否定せず受け入れて会話している。外出コースをいくつか用意して選べるようにし「日帰りミニ旅行」として実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムは保ちながらも、利用者一人一人の状態などに応じて、見守りを基本とした支援をしている。特に体力低下のある方には、意向があれば居室休憩を長くとりおやつ時間をずらすなどの工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に本人の好きな衣服や小物を持ってきていただき着用し、折に触れて話題にしている。能力のある方には入浴時などの衣服を自分で選んでいただいている。自分で判断できない方には、職員がその方の元々の好みやいとうつりなどを考慮して選ばせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は業者委託しているが、単品のおかず作りやおやつ作りを一緒にしたり、ホーム内の焔で採れたものや頂き物などを活用して調理している。また食事の準備や後片付けはともに行っている。	食事は法人が運営する全施設について一括して食材を購入し、併設施設にて調理しており、食事を通じた健康管理を徹底している。また、食事時には事業所の敷地内で採れた野菜などを調理した一品を加えることもあるなど食事を楽しめるよう配慮している。なお、食器は馴染みのものを使用することができる。	食事に関する法人としての対応を尊重しつつ、事業所として可能な限り利用者の希望に応え、職員とともに調理や食事を楽しむような取組みや工夫に期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューをもとに具材加工、盛り付け、量、形態は利用者個々の状態に応じて変えている。特に咀嚼・嚥下機能の低下のある方には、刻み、ペースト状、とろみなどで提供している。食事や水分の摂取量はパソコンで記録し経過を見て、体重変化と付きあわせて健康管理に繋げている。排便コントロールのため好みのジュースやバナナ、ヨーグルトなどその人に合わせて個人購入し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、歯磨き、うがい、義歯洗浄を毎食後行っている。自分でできる方は見守りで、できない方は介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄訴えのない利用者に対しては、排泄記録からパターンを把握しトイレ誘導をしている。尿量に応じたパットの選択や、残尿の残らない介助の方法を工夫し、不快感除去や感染防止に努めている。	利用者個々の排泄状況やリズムを把握し、行動や表情を見逃さずさりげない声かけや誘導を行うなど尊厳とプライバシーに十分配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職員と相談しながら、運動、体操、散歩を取り入れたり、水分摂取の強化に努めている。また管理栄養士と相談し、週に2回バナナジュースをおやつに提供している。家族協力にてヨーグルトやファイバーを購入していただき、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の誘導は必ず本人の同意をとっている。精神状態、活動状況をみながら声掛け、生活の自然な流れを損なわないようにし、湯加減も好みに合わせている。週3回の入浴日は決まっているが、別階の入浴日を利用すれば、毎日の入浴も可能な体制」ではある。	入浴は基本的に週3回としているが、希望により毎日でも可能である。また、利用者の好みに合った湯加減とするなど心地よく入浴できるよう配慮するとともに、入浴を嫌がる利用者には家族の協力を得ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに合わせて過ごしていただいている。日中でも本人意向があれば居室で過ごしていただいたり、夜間眠れない方にはお茶を提供しながら、お話し相手をするなどの工夫で安心できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報書を利用者の個人ファイルに綴り何時でも確認できるようにしている。また服薬変更や追加時には申し送りノートに情報量を綴り周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々について、昔からの趣味や得意分野を把握し、安全に配慮しながら作業をお願いしたり、レクやクラブ活動を呼びかけている。感謝や賞賛の言葉で張り合いや意欲を感じて頂けるよう努めている。ADL低下で困難な方にもお好きな動物や景色、家族写真の掲示、歌などで楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑の収穫の他、ドライブや買い物、外食などの支援を行っている。地域の催し物参加や保育園との交流、美術館見学などに出かけている。今年度は日帰りミニ旅行は5コース設定し、個々の希望に沿いながら家族を交えて実施している。	馴染みの店での買い物や理美容の利用など利用者の希望に応じ外出しており、帰宅願望の強い利用者には曜日を決め外出するなど配慮している。また、家族同伴での小旅行を実施したり、遠出が困難な利用者には、近辺をドライブするなど無理なく出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	随時の買い物や外食などの希望に応じられるよう、事務所の小口現金より希望に応じて立替ができるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は随時職員が電話をし、職員の対応後にお話ししていただくようにしている。手紙が届いたときには、本人にお見せして返事がかけるように援助、または代筆させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	芳香剤、消臭剤の使用で不快感を和らげ、日々の会話や作品等で季節感を表現している。また様子を見て音楽を流している。ソファやテーブルの配置にも自分の居場所の確保や親しい方同士の交流がしやすく、くつろげるよう工夫している。	共用空間は広く、ソファを置いたり、畳間を設けるなど居心地良く過ごせるよう配慮している。また、廊下、壁には利用者の手作り作品や俳句などを掲示し、利用者の生活意欲を高めるような工夫をしている。なお、職員室からはフロア全体が見渡せ、利用者を見守っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が同じテーブルにつけるようにしたり、ソファで隣同士になるよう誘導している。またそれぞれお気に入りの場所ができており、好きな場所で過ごせるよう見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や馴染みの家具を置いていただいている。整理や掃除については、本人の意向を尊重しながら、一緒に行ったり、雰囲気や壊さないよう時期を見計らって行っている。	居室には利用者の希望に応じ馴染みの物、道具が持ち込まれており、安らぎの場所となり、入所後も利用者の生活が継続されるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の不安な方が掴まりやすいようにホールのテーブルの位置を配慮したり、廊下に手すりを付けている。掲示物は利用者目線を考えた位置に掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700132		
法人名	社会福祉法人 白女林		
事業所名	グループホーム白楽荘 みくにの里(2F)		
所在地	福井県坂井市三国町梶49-18		
自己評価作成日	平成 26年 9月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成26年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的な買い物やドライブ、自宅付近への外出はもちろんの事、年に1回何か所かコースを設定し、ご家族の方や利用者の方に希望をとり、小旅行と称して朝から夕方までの外出を行っています。ご家族の参加の中でも配偶者の方が来られる方もいらっしゃいますが、職員同行であるため安心して参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「1Fユニット」と同様。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階出入り口付近に理念を掲示して日々確認できるようにしている。行事、外出企画、制作物、レクレーションに地域の特色を取り入れて実践している。	「1Fユニット」と同様。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出かけたり、ドライブで特色ある地域の景観を楽しんでいる。入居者の自宅付近に出かけたり、馴染みの散髪屋などの店に行けるよう支援している。法人全体で地域の自警団と共に避難訓練を行った。地域の震災訓練にも参加している。また三国図書館の本の集団貸出しを利用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や保育園の訪問をしたり、中学生の職場体験学習の場を提供している。法人全体として民生委員の見学、ロールプレイで説明などを行っている。三国警察署の協力のもと交通安全運動に利用者と共に参加し、ショッピングセンターで手作りマスコットを配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市議会議員、坂井地区広域連合担当者、地域包括支援センター職員、地区長、地域有識者、保育園所長、家族会会長に参加していただき、活動法区や現状報告、地域密着としての活動相談をし、意見や情報をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議で実状やケアサービスの取り組みを伝え、今日協力やアドバイスをお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出の危険のある利用者がおられ、2階出入り口を施錠した時期もあったが、施錠開放に取り組み成功した。夜間以外は施錠していない。また拘束廃止委員会を通して、拘束にあたらぬかなどを検討し、解決している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で権利擁護、虐待防止についての勉強会を開催している。また週3回の入浴時に全身状態の観察を行っている。内出血や皮膚剥離等に関してはミーティング等で原因を追究している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に出席している。成年後見人、関係者と話し合いをして、随時の連絡をとれるようにしてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前説明の日時を設定し、話し合いと同意の上で入居していただいている。また料金改定の際は家族会での説明や個々のお宅に伺って説明同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、要望を記入し投函できる箱(心の音入れ)を設置している。また面会等で意見、要望を言うてくださりやすいように働きかけている。法人全体で2ヶ月に1度苦情相談委員会を設け、話し合いの場をもったり、アンケートを実施したりしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議(月1回)や日々のチームミーティングで出た意見、個々のコミュニケーションを通して得た意見を取り上げ、具体的な方策を考案し実現へとつなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表で自己評価をし、第2次、第3次評価を行い、賞与に反映させている。また管理者、リーダーが中心となって有給、リフレッシュ休暇の取得を薦めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が中心となり、法人内研修に積極的に参加している。外部研修に関しては職員一人一人のレベルに合わせた研修に参加できるよう薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場で同業者と交流するぐらいであったが、グループホーム連絡協議会の働きかけにより、今年度からグループホーム間交流が始まり、10月に参加を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人とお会いして直接話を伺ったり、入居後に密に関わり本人の言葉に耳を傾けケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話し合いをもっている。また面会時や随時の電話等で要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いや調査等の聞き取りをしたり、居宅ケアマネからの情報で必要な支援を見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な作業を入居者と共に行い、一人一人のできることを生活に活かしている。作業手順について入居者の意見を取り入れたり、得意なことを生かしたことや歌などを職員に教えて頂いたりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊、面会の支援とともに外出や他科受診の同行も状況に合わせお願いしている。また衣類、生活用品、化粧品等、おやつ等の購入も協力いただいている。清潔ケアに抵抗のある方は、時々家族に共同浴場や散髪に連れて行っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や地域行事に出かけたり、他施設の友人や家族に会いに行けるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係が保てるようテーブル座席配置をしている。気配りや作業援助のできる力をお借りして、ともに作業や会話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設に移った方の面会に出かけている。他の施設に移った方のご家族にお会いしたときに、その後の経過を伺うなどコミュニケーションに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族に伺いフェイスシートに記入している。またケアプラン作成時、他必要に応じてセンター方式シートを記入したり、日々のコミュニケーションから得た思いや希望をミーティングを通じて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話、家族からの聞き取り、入所前に利用しておられたサービス機関や在宅時ケアマネージャーからの聞き取りを通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録(ケース記録)、食事、水分、排泄記録、バイタルチェック表、外来診療や受診の記録、センター方式シートなどで現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームミーティングで話し合っており対応している。本人をミーティングの場に招き話を伺うこともある。家族、医師、看護師、介護士、それぞれの意見を聞き取りケアプランにつないでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日パソコンで全員の介護経過記録を記入している。重要事項については申し送りノートに記入し随時ミーティングで検討。モニタリングにも反映し、介護計画にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により映画館にお連れしたり、その方の意向に合った美容室を探してお連れする等の開拓をしている。夏の花火大会には時間外だが職員家族も加わり、毎年恒例の楽しみの一つとして、もりあげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、行事への参加を行ったり、地域で活躍するボランティア団体との交流を行っている。希望があれば、個別に馴染みの理髪店や美容院にお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所医師より月2回外来診療を受けている。また、診療所を通じて訪問歯科診療を受けている。精神科はほぼ月に1回のペースで訪問診察を受けたり、地域病院受診等で各専門職のアドバイスも受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化について、状況に応じて、事業所内看護師、併設診療所(医療連携)看護師に相談し、受診に結びつけたり、ケアの指導を受けている。診療所とは、夜間オンコール体制により緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の相談窓口や看護師と連携を取り合い、随時病状を確認したり、治療や退院時期の見通しなどについて家族も含め話し合っている。退院時には病院に出向いてカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時早い段階で重度化や終末期に向けた家族の意向を確認し、事業所内で対応可能な内容を説明した上で、他施設・病院・在宅での看取りなどの選択肢も明示している。また、状態低下がみられた段階で再度説明し、診療所や医療機関と話し合いをもったり、他施設への移動の支援をするなど、チームで一貫したケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをフロアーに設置し、新入職員に対して業務時間内に読み合わせをして指導している。またAEDの設置、消防署への救急法の研修に年ごとに参加者を出すなど全員への普及に努めているが、定期的な訓練までは行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の事業所内の避難訓練を行っている。また法人全体で夜間を想定した夜間総合避難訓練や地震想定訓練を行っている。いずれも地区消防団や消防署の協力・指導を得て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴への誘導に拒否感のある方には「お願いしたいことがあります」など言葉を替えて誘う工夫をしている。作業やレクリエーションにも強制することなく、自然に参加できるようにしている。一人一人の理解力や性格にも配慮して言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ごく普通の希望はもちろん、認知症からくる繰り返し訴えや帰宅願望なども否定せず受け入れて会話している。外出コースをいくつか用意して選べるようにし「日帰りミニ旅行」として実施している。着替えや入浴は思いを尊重しつつ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムは保ちながらも、利用者一人一人の状態などに応じて、見守りを基本とした支援をしている。特に体力低下のある方には、意向があれば居室休憩を長くとりおやつ時間をずらすなどの工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に本人の好きな衣服や小物を持ってきていただき着用し、折に触れて話題にしている。希望の化粧品類の購入支援や外出時の衣服を選んでいただいたり、美容院での毛染めの付添等を行っている。衣服や髪型を意識してほめたり、おしゃれをしたい気持ちを持ち続けていられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は業者委託しているが、単品のおかず作りやおやつ作りを一緒にしたり、ホーム内の焔で採れたものや頂き物などを活用して調理している。また食事の準備や後片付けはともに行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューをもとに具材加工、盛り付け、量、形態は利用者個々の状態に応じて変えている。特に咀嚼・嚥下機能の低下のある方には、刻み、ペースト状、とろみなどで提供している。食事や水分の摂取量はパソコンで記録し経過を見て、体重変化と付きあわせて健康管理に繋げている。排便コントロールのため好みのジュースやバナナ、ヨーグルトなどその人に合わせて個人購入し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、歯磨き、うがい、義歯洗浄を毎食後行っている。自分でできる方は見守りで、できない方は介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄訴えのない利用者に対しては、排泄記録からパターンを把握しトイレ誘導をしている。紙パンツ、パットはその方の状態や排泄状況に応じて使用し、安易に使わないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し必要な場合下剤の調整をしたり、看護職員と相談しながら、運動、体操、散歩を取り入れたり、水分摂取の強化に努めている。また管理栄養士と相談し、週に2回バナナジュースをおやつに提供している。家族協力にてヨーグルト、ヤクルト、ジュース、バナナを購入していただき、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の誘導は必ず本人の同意をとっている。精神状態、活動状況をみながら声掛け、生活の自然な流れを損なわないようにし、湯加減も好みに合わせている。入浴洗髪に抵抗がある方には、家族に協力いただきおふろやさんに連れて行っていただくなどの工夫もしている。週3回の入浴日は決まっているが、別階の入浴日を利用すれば、毎日の入浴も可能な体制「ではある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに合わせて過ごしていただいている。日中でも本人意向があれば居室で過ごしていただいたり、夜間眠れない方にはお茶を提供しながら、お話し相手をするなどの工夫で安心できるよう努めている。また医師との相談の上眠剤を使用する方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報書を利用者の個人ファイルに綴り何時でも確認できるようにしている。また服薬変更や追加時には申し送りノートに情報量を綴り周知するようにしている。外出、外泊時は家族にわかりやすいよう専用のパッケージに入れて渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々について、昔からの趣味や得意分野を把握し、安全に配慮しながら作業をお願いしたり、レクやクラブ活動を呼びかけている。感謝や賞賛の言葉で張り合いや意欲を感じて頂けるよう努めている。ADL低下で困難な方にもお好きな動物や景色、家族写真の掲示、歌などで楽しんでいただいている。また図書館の本も活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑の収穫の他、ドライブや買い物、外食などの支援を行っている。地域の催し物参加や保育園との交流、美術館見学などに出かけている。今年度は日帰りミニ旅行は5コース設定し、個々の希望に沿いながら家族を交えて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	随時の買い物や外食などの希望に応じられるよう、事務所の小口現金より希望に応じて立替ができるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は随時職員が電話をし、職員の対応後にお話ししていただくようにしている。手紙が届いたときには、本人にお見せして返事がかけるように援助、または代筆させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	芳香剤、消臭剤の使用で不快感を和らげ、日々の会話や作品等で季節感を表現している。また様子を見て音楽を流したり、観葉植物を置いたり、亀を飼ったりして自宅のような雰囲気にならなう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が同じテーブルにつけるようにしたり、ソファで隣同士になるよう誘導している。またそれぞれお気に入りの場所ができており、好きな場所で過ごせるよう見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や馴染みの家具を置いている。整理や掃除については、本人の意向を尊重しながら、一緒に行ったり、雰囲気を壊さないよう時期を見計らって行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の不安な方が掴まりやすいようにホールのテーブルの位置を配慮したり、廊下に手すりを付けている。身体の小さい方は低いテーブルで食事を食べやすいようにしている。掲示物は利用者目線を考えた位置に掲示している。		